

インターカルチャー

INTERCULTURE

NO.117

2008年5月号

MAY



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

7ヶ国語で宣誓・入学式
卒業生 76名 巣立つ
英検1級に1名合格
APAC 男女サッカー



2008/4/1 万国旗に囲まれて入学式

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC (Asia Pacific Activities Conference) の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生（日本の小学6年生～中学3年生春学期）をミドルスクール (MS)、9年生～12年生（日本の中学3年生秋学期～高校3年生）をハイスクール (HS) と呼んでいます。

Fantasy

大迫弘和
SIS 校長

日本は桜の国。学園内の桜もいつのまにか随分育ち、桜花が日本を覆い尽くす美しい季節に、学園でもソメイシノの花びらが子ども達の弾む笑い声に誘われるように揺れる、そのような時間が流れるようになりました。学園 18 度目の春です。

学校という場所は、その主人公たる子ども達が、毎年次から次へと入れ替わっていく場所です。SIS でも最大でも 6 年という時間が過ぎると、子ども達は次の場所に旅立ちます。何度も何度も、子ども達の幸福を祈りながら、彼らを送り出しているのが学校という場所なのです。

主人公である子ども達が変わっていきますので、学校という場所では、毎年毎年同じ事を繰り返しても、新しいなにかが生み出されていき、子ども達はしっかりと望まれる成長を遂げていく。

そのように考えると、学校では、その学校なりのある形が出来あがれば、それをひたすら繰り返していくということで、役割を十分に果たせることにもなるでしょう。伝統のようなものもそのようにして形作られていくのでしょうか。

しかし、やはり、百年一日の如く、ただ同じ事を繰り返していることは、進歩、というコンセプトから考えると、決して望ましい事ではない。学校という組織にとっても、先生という個人にとっても。

桜の樹は育ち、確かに時間は流れており、だから、止まってはいけいない。

2008 年度、校内に「MYP 委員会」を新設しました。委員をお願いしたのは真砂先生・青山先生・合志先生・フランス難波先生の 4 名の先生方です。また OIS の MYP コーディネーターの Caroline Rennie 先生もこの委員会に力を貸してくださることになっています。

MYP って？と思われる方もあるかと思いますが。このインターカルチャーの 104 号から 107 号まで（2006 年 3 月号—10 月号）4 回連続で国際バカロレアについて書きましたのでそちらを見ていただくと分かっていたいただけるはず（www.senri.ed.jp でインターカルチャーに飛ん

てください）。

OIS の日本語科の大迫奈佳江教諭が本校の研究紀要第 12 号（2007 年）に発表された論文の文章をお借りすると、世界水準の教育プログラムである国際バカロレアとは「21 世紀を担う次世代では、個人レベル、国家レベルではなく、世界レベルでものごとを考えられる人間が育っていかなければならない」とする教育であり、また「互いに『同じ』になろうとするのではなく、『違い』を積極的に理解する姿勢」を求める教育です。私たちが日々教育活動を共にしている大阪インターナショナルスクール OIS では 1991 年 9 月の創立当初より国際バカロレアの The Diploma Programme（中等教育最後の 2 年間を対象とするプログラム。略称 DP）を実施、2004 年には The Middle Years Programme（略称 MYP）、The Primary Years Programme（略称 PYP）の実施が正式に認可され、これにより OIS は幼稚園から 5 年生に対し PYP が、6 年生から 10 年生に対し MYP が、そして 11・12 年生に対しては DP が提供される、一貫した IB プログラム提供校となっています。

私たちのキャンパスは教育の宝の山。今のところ SIS が MYP を完全導入することをゴールとして考えているわけではありません。しかし、MYP からきっとたくさんのことが学べ、SIS の教育が留まることなく進化していけるヒントがそこにあるように予感するのです。

生徒達が決めた今年の学園祭のテーマは「Fantasy おとぎ話」。テーマ決定の発表を聞きながら、SIS が子ども達を幸せにするおとぎ話のような学校であり続けたい、と思ったのでした。そのためにも、常に前に前に、進化し続ける学校でありたいと思うのです。

桜の花に包まれた子ども達はまるでおとぎ話の世界にあるかのように幸福感に満ち、その Fantasy World では風に花吹雪となって散る桜の花びらのひとひらひとひらからさえ、子ども達への限りない

愛がしみ出ている。

私も散ってさえも子ども達を思うひとひらの花びらでありたいと、そう思わせる花吹雪舞う春です。



千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行動に責任を持ち、よい人間関係を維持していく能力が、生徒各自に備わっていると信じます。この考えにもとづいて、次のような行動の目安がつけられています。

＜5つのリスペクト＞

自分を大切にする

他の人を大切にする

学習を大切にする

環境を大切にする

リーダーシップを大切にする

7ヶ国語で宣誓

第 18 回入学式

中等部・高等部第 18 回入学式が、4月1日（火）に本学園の体育館で挙行されました。音楽科森路佳先生の指揮による華やかなバンド演奏と大きな拍手に包まれて、56名の中等部入学生と、87名の高等部入学生（内部進学者 73名含む）が入場しました。

大橋太郎理事長・学園長、福田國彌副理事長、OIS キャプティン校長から心温まる祝辞をいただきました。大迫校長のお話とともに、しっかりと新入生、編入生の皆さんの心に刻まれたことと思います。

毎年恒例の生徒宣誓は、7ヶ国語で行われました。河野遼太郎さん（7年 日本語）、林バネッサ小百合さん（7年 スペイン語）、中原萌さん（7年 英語）、ディボフスキー エカテリーナさん（7年 ロシア語）、崔禎秀さん（10年 朝鮮語）、松崎真理さん（10年 ポルトガル語）、田村友二さん（10年 ドイツ語）の7名が、堂々とそれぞれの言語で、世界人権宣言の精神に基づいた生徒宣誓を行いました。最後に中等部生徒会、高等部生徒会からとても楽しくユニークな歓迎の言葉があり、SISを新入生、編入生にしっかり紹介してくれました。



第15期卒業生巣立つ

3月1日(土)千里国際学園体育館にて、高等部第15回卒業式が挙行されました。多くの保護者、在校生、教職員が12年生76名の旅立ちを祝福しました。式はジョン・セコム先生の指揮によるストリングスの演奏と、卒業生が制作した映像の上映で始まりました。卒業生がスポットライトを浴びながら赤いじゅうたんを歩き、壇上で校長先生から卒業証書を受け取る時には、卒業生の一人ひとりが自分で選んだ写真がスクリーンに映り、自分だけのBGMが流れました。それぞれに個性が出ていて、卒業していくにあたっての気持ちがよく表れていたと思います。式の締めくくりは、卒業生による「心の旅(チューリップ)」の合唱でした。新たな一歩を踏み出す卒業生とその輝かしい未来に幸あれと願っています。



多彩な進路

2008年3月卒業生の進路

区分(地域・学部系統・領域等)	人数	所属(学科・学校等)
海外	4	Pennsylvania State Univ. / Temple Univ. / Fordham Univ. / Berklee College of Music
	1	オーストラリア Univ. of Melbourne Trinity College
	1	台湾 慈済大学
	3	海外に進学予定
人文学	2	文学 英文(同志社大) / 英米文(関西学院大)
	3	語学 フランス語(上智大) / 英語(上智大) / 英米語(京都外大)
	1	歴史学 (関西学院大)
	3	哲学・心理学 哲学(学習院大) / 心理学(立命館大) / 心理学(関西学院大)
社会科学	6	法学 (上智大) / (同志社大) / (関西学院大) / (立命館大) / (慶応大) / (明治大)
	1	政治学 (早稲田大)
	1	経営学 (明星大)
	3	商学 (中央大) / (関西学院大) / (明治大)
	3	社会科学系統学際 マスコミュニケーション(関西大) / キャリアデザイン(法政大) / メディア情報(関西学院大)
総合・学際	6	国際関係学 (立命館大2) / (立命館大DD) / (明治学院大) / (関西学院大) / アジア太平洋(立命館アジア太平洋大)
	4	総合政策学 (関西学院大3) / (慶應大)
	1	教養学 国際教養(桃山学院)
	2	人間科学 (甲南大) / (神戸松蔭女子大)
理学	1	理学 理科Ⅱ類(東京大)
	1	生物学 生物資源(筑波大)
	1	理学系統学際 環境バイオサイエンス(神戸女学院大)
工学	1	機械工学 (関西大)
	1	工学系統学際 航空整備士(大阪航空専門学校)
医療・保健	1	医療技術 スポーツ健康科学(流通経済大)
家政	3	食物学 (山脇学園短大) / 食品栄養学(近畿大) / 食物栄養(帝塚山大)
教育	1	教育学 総合人間科学部(上智大)
芸術	1	美術 (京都市立芸術大)
	2	工芸・デザイン (京都市立芸術大) / ビジュアルデザイン(京都精華大)
	1	音楽 演奏活動
	3	映像 映画(京都造形芸術大) / 映像(立命館大) / アニメーション(京都精華大)
	1	演劇 (日本大)
資格・技能	2	国際観光(平安女学院) / 乗馬クラブ
未定	12	大学進学予定
	76	全卒業生の合計 (2人以上の場合は学校名のあとに人数を示した)

過年度生の進路

区分(地域・学部系統・領域等)	人数	所属(学科・学校等)
文科系	1	政治学 政治学科(関西学院大)
	2	教養学 教養(国際基督教大)・人間文化(帝塚山大)
	1	教育 総合人間科学部(上智大)
	1	宗教 佛教(大正大)
	1	情報 環境情報(慶応大)
芸術	1	演劇 (日本大)
	7	過年度生の合計

異動のお知らせ

<新任>

鷹野由紀子
国語科

この4月から再びSISの教壇に立つこととなりました。去年の3月、みなさんにお別れの挨拶をした時には、これほど早く戻ってこれるとは思いませんでした。



SISを離れていた1年間は、兵庫県にある3つの学校で主に中国語を教えていました。何もかも一から覚えて新しい環境に慣れるには、相当なエネルギーが要るものです。そこを通常の3倍絞り出さなくてはならなかった私は、初めの1ヶ月間をSISの懐かしい思い出から充電して乗り切っていました。各学校に慣れ、それぞれの特色や生徒の個性が見え始めてからも、やはり思うのは「SISならどうだったかな。」ということばかり。気がつくといつもこの学校のことを思い出していたものです。

先日、ある生徒から「なぜまた戻ってこることができたんですか？」と尋ねられました。本当になぜなのでしょう。その時の私も決定的な答えが見つからず、「縁だ。」と片づけてしまいました。でも、これも決して間違いではないように思います。何事も無数の偶然の組み合わせで成り立っているものです。今年また戻ってこれたのも、きっと多くの偶然が重なった結果でしょう。そもそも初めてこの学校に来たのも、教員になったのも、進学したのも……、思い返せば一つ一つに偶然の出会いや出来事がありました。

何度となくSISを思い出していた頃に、ふと巡ってきたこの縁を私は大切にしたいと思います。そして、これからの励みとなるような素敵な思い出を、みなさんと一緒に作っていききたいと思います。

中嶋かり
中国語

はじめまして、今学期から中国語を担当させていただきます。中嶋かり(karinakajima)です。第二外国語の中国語の授業を取っていただきました方とはもう既に教室でお会いしましたが、改めて宜しくお願いします。今までは主に中国語の翻訳や裁判所での法廷での司法通訳の仕事をしてきましたが教壇に立つのは初めてです。前任の先生からこの話をいただいてから、4月2日に皆様とお会いするまでの日々は大学受験よりも緊張して不安な毎日でしたが、教室で廊下で皆様と出会ったときの優しい笑顔がわたしを和ませていただきました。



これからも中国語に少しでも興味がある方には、ぜひ220をノックして覗いてみてください、一緒に勉強していきましょう。

蔡ユギョン
韓国語

アンニョンハセヨ。韓国語の蔡ユギョンです。新しい気持ちでがんばりますのでよろしくお願ひします。



岸田尚子
図書館

はじめまして。4月から図書館スタッフになりました。岸田尚子です。前職では、京都の大学図書館で、パソコンによる目録業務をしていました。芸術方面にも興味があり、様々な人



達と交流をもつ事が好きなので、この図書館で色々な人達との出会いを大切にしながら働ける事を嬉しく思います。皆さんがより良い時間を図書館で過ごせる様に一生懸命頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



岸田さんは、日本画で修士課程まで修めていらっしゃるのですが、今回、次の展覧会に入選作を出品されるそうです。「2008 京都春季創画展」 期間：4/15-27 場所：京都市美術館 主催：創画会（日本に3つほどある日本画家の団体のひとつだそうです）後援：京都市（青山比呂乃：図書館）

春学期入学帰国生数

入学センター

《 最終在留国 》

アメリカ	14
シンガポール	3
オーストラリア	2
イギリス	1
オーストリア	1
タイ	1
韓国	1
中国	1
サウジアラビア	1
タンザニア	1
ポルトガル	1
チェコ	1
パナマ	1
国内外国人学校	1
計 14ヶ国	30

《 学年 》

7年生	17
8年生	0
9年生	3
10年生	7
11年生	2
12年生	1
計	30

新9年生のみなさん、ありがとう！

～千羽鶴に込められた慈悲の心～

栗原真弓
カウンセラー

千里国際学園で『ミルク募金』というチャリティー活動を始めたのは、開校翌年1992年のことでした。本誌2008年3月号に初代校長の藤澤皖先生が創設期を回顧してお書きくださった文章の中に、阪神淡路大震災で亡くなられた保護者の方について綴られている箇所があります。「インドのマザー・テレサの施設のためにミルク募金を提唱した方である」と。権田さんというその保護者の方は、子どもの教育にとって何が大切かをご存知の、本当に素晴らしい方でした。私たちはこの募金活動を権田さんからの遺言のように受け止め、毎年クリスマスの時期に絶やすことなく続けてきました。

そして、10年前からは7年生の担任団と生徒全員が募金活動のリーダーシップを担い、毎年手作りのキャンペーンをしてきています。初々しい7年生の生徒たちが募金箱を手に「1回のアイスクリームを我慢して、募金してください。そのお金が、インドの孤児院の子どもたちの数日分のミルク代になるのです」と一生懸命呼びかけている姿は、この募金の趣旨に一層副い、今ではSIS/OISの両校にしっかりと認知されています。

そんな形で集めたミルク募金を、現金と共に一部は注射針や薬に換えて、毎年インドのカルカッタの孤児院に大きな荷物を背負って直接届けてくださっていた方が、権田さんのご友人で元看護師をされていた是枝さんです。その方が昨年末、歩道を歩いていたにも拘らず交通事故に巻き込まれ、長期入院を余儀なくされました。1月末になって届いた是枝さんからの年賀状に、もしかしたら車椅子になるかもしれません…と書いてあり、そのことを当時の8年生（現9年生）に伝えました。その学年の生徒たちは、募金活動の事前学習としてカルカッタの孤児院についてより詳しく知るために、是枝さんにご来校いただき、多くのスライドを見ながら貴重なお話を聞かせてもらっ

ていました。

特にご縁のあった学年だったので、事故のことを担任の難波先生、加納先生、中村先生にお伝えしたわけですが、それに対して即座に千羽鶴とメッセージを添えた色紙がお見舞いとして用意されました。生徒が一つ一つ折った千羽鶴はずっしりと重く、全員が寄せ書きをした色紙には是枝さんを元気づける中学生らしい言葉が溢れていました。他人の悲しみにもそっと添うことのできる心の優しさに、思いやりの気持ちを直ぐに形にすることのできる行動力に私は感動し、彼ら彼女らを誇らしく思いました。新9年生のみなさんから寄せられた温かい思いは、是枝さんの心を癒し、明日への励みとなっていることでしょう。そして、マザー・テレサも天国から「また一つ素敵なことをしましたね！」と褒めてくださっているかもしれません。マザーは生前、毎年募金をしていた千里国際学園のことをちゃんと覚えていてくださったそうですから。

<あとがき>

上の原稿を書いてから一週間たった昨日、是枝さんからお礼状が届きました。「皆さんから心温まる千羽鶴と寄せ書きを送っていただき、どれほどなぐさめられ、涙したことでしょう。心より感謝申し上げます。病室にいられた人々が千羽鶴を見てウワーと笑顔でした。それもこれも生徒のみなさんのお陰です」とありました。

大きな千羽鶴の束をコンピューター室で私がみなさんから託された2月のあのLHRの日、私たちは知らなかったけれど、その前日に是枝さんは治療の甲斐なく右足を切断されていました。何とも残酷で無念なことです。苦しみの中にありながら、段々と現実に戻っていかれる過程で、みなさんからお見舞いはとても支えになったそうです。励ましを求めていらしたその時に、相応しい形で示すことができ、



本当に良いタイミングでした。「中学3年生になられた生徒のみなさんにくれぐれもよろしくお伝えください。忘れません！と。神様の豊かな恵みがありますように。感謝を込めて」と締めくくってありました。

人を励ますということは、自分が感じる以上に相手にとっては大きな力となり、希望を与えます。日常の中で、ふと誰かのことが気になって、元気がなさそうな、何かあったのかなと思ったら、ためらわずに声をかけてみてください。あなたの一言で、救われたり、勇気ももらったりする人は多いのです。自分のことを気にかけてくれる人がいるということが、いかに大きな心の糧となるか。それがあれば大きな苦難も乗り越えることができるということを、改めて学ぶ機会となりました。忘れないでおきたいものです。

最後に、生徒たちの意向を尊重しながら、必要なところで手を差し伸べ、人間として忘れてはならない大切なことを折に触れてご指導をくださっている担任の先生方にも心からのお礼をお伝えしたいと思えます。ありがとうございました。

「鬼あつい」台湾旅行

岩村果奈

高等部3年、学年旅行委員長

3月14日から3月18日にかけて台湾へ4泊5日の学年旅行に行きました。SISの学年旅行は生徒による生徒のための学年旅行です。旅行中のプランから就寝時間のなにかからなまでに私たちの意思にまかされているので先生方からの一切のアドバイスや助けはありません。一見、企画側はラクで楽しそうだなと思いがちですが、実際そうではありませんでした。旅行に行く半年以上も前から旅行委員を決定し候補地をあげ、学年全体による候補地のプレゼンを夏休み明けにLHRで発表しそこから投票、旅行地決定。旅行委員によるMTG（ミーティング）を繰り返し、旅行中のプランから部屋割りの決め方まで細かなことを毎回のLHRで学年のみんなに報告して、保護者向けへのプレゼン、しおり作りなど念入りに進めて行きました。

しかし、自分たちでつくりあげる旅行、学年全員で行く旅行というだけあって学年のみんなへの報告のときは些細な事でLHRの時間をまるまる使ってしまうこともありました。時には、ひとつのことを決めるだけで旅行委員のみんなが6時まで話し合いをかさねて言い争いをしてお互い嫌な気分になってしまったこともありましたが、でも、その分みんなの「旅行を成功させよう！」という気持ちが増し、旅行委員の台湾旅行への情熱は日に日にあつくなくなっていました。

そこで私たちがこの旅行につけたテーマが「一期一笑」です。一期一会を大切にすること、常に笑ってすごせる旅行にすることを目標に旅行へのプランを考え進めていきました。

しかしそれに伴い、旅行委員長である私にはたくさんのプレッシャーが旅行に近づくにつれ押し寄せてきました。しかし、たくさんの先生方から「いい旅行にしてね。」などと言われるたびにプレッシャーを感じつつも次第に前向きな気持ちに変わって行きました。

旅行当日、大迫先生や池田先生たくさんの保護者のかたに見送られ私たちは台湾へと旅立ちました。もうここまで来た



らやるしかないという気持ちで私たち自身も楽しめて、みんなが楽しめる旅行にしようという前向きな気持ちで旅行委員全員が旅行へと挑みました。

台湾へ到着した時は、目的地へ移動中のバスの中では、些細なことでも盛り上がり「タピオカミルクティーがのみたいー!!」「バイク多すぎやろ!!」などとみんなが台湾に来たことを楽しんでくれていたんだと感じ、嬉しく思いました。この日は予定通り台北市内の龍山寺へ行きました。みんなでバスガイドさんの話を聞きおみくじをしたり境内をまわったりして楽しみました。2日目は、台北から離れ花蓮へと向かいました。移動中の電車の中では停電が起こったりしましたが無事到着しました。花蓮では現地のたくさんの方々の自然を楽しむことができました。タロコ渓谷では大自然を目の前にして「すごい……。」としかいいようのない景色を目の当たりにして大興奮しました。その後は、現地のアミ族という民族の方々のダンスショーを見に行きました。そのショーでは、アミ族の方々からダンスに誘われ学年の大半がダンスに参加しアミ族の方々との交流を楽しんでいました。3日目は、花蓮から直接バスで九份へと向かいました。九份は、私たちのリサーチしていた内容より町が大きく自由行動をしてしまうとほぐれてしまわないかな。と少し心配しましたがちゃんと時間通りにみんなが集合してくれたおかげでスケジュール通りに出発することができました。夕食後、台北の士林夜市にも行きました。たくさんの方々の夜店が並んであって、服やアクセサリー飲み物やたくさんのもものが売られていて、ストラックアウトなどのゲームもあってみんな思い思いに楽しんでいま

た。4日目には、旅行委員で一番手をかけた一日中自由行動の日でした。学年全員を約8人ずつの10ムーフ(グループ)にクジでわけてムーフごとに1日のプランをLHR中に考えてもらうというプランでした。ランダムに決めたメンバーを決めたこともあって、楽しい思い出を作れるか不安でしたがその日の写真をパーティーで見たときはどのグループも楽しそうに安心しました。その日の夕食はみんなでパーティーをしました。旅行委員で考えたゲームやみんなが参加してくれたパフォーマンスを見てあっという間に時間は過ぎていきました。パーティーの最後に旅行委員長の私からスピーチをしました。私は今までスポーツデイで12年に勝ってもパフォーマンスが1位になっても嬉し涙を流したことがありませんでした。しかし、この旅行委員長を務めて初めてこのスピーチで嬉し涙を流しました。充実感に溢れ、同時にみんなから「ありがとう。おつかれさまー。」といわれることがとても嬉しかったです。最終日は、みんなで民芸品店に行き、台北101と言われる大きなビルにも行きました。最後の最後まで充実した台湾旅行でした。

この旅行を終えて、本当に旅行委員長をやってよかったなと思いました。リーダーシップの大切さや責任の重さ、常にみんなを思いやる気持ちは旅行委員長をやりとげたから学べたことだと思いません。旅行委員のメンバーには、つらくあたってしまったこともあったけどみんなと一緒に旅行をつくれて本当よかった。このメンバーじゃなかったらこんな充実したあつい旅行はつくれなかったと思う。メンバーのひよんじよん、みふあ、悠、れい

(次ページ★に続く)

より高い到達目標を持つ学校に！

～評定基準の変更について～

真砂和典

教務センター、理科

先日、大迫校長から SIS の各家庭にお知らせが配布された。下のよう評定基準が変更になるというものだ。(これまで)

- A 優秀な成績である
- B 到達目標に達している
- C 学習された内容にやや不足がある
- D 学習成績にかなりの程度の問題がある
- F 不合格
- I 評価・評定の保留
- P 単位は認めるが評価・評定は出さない

(2008 年度より)

- A 学習内容の達成度が優秀である
- B 学習内容の達成度が良好である
- C 学習の基本的内容が達成できている
- D 学習内容の達成度が不十分である
- F 不合格
- I 評価・評定の保留
- P 合格 (評定を与えるのに適当でない科目においてのみ使用)

このことについて、ここ何年間か議論してきた教務センターの立場から私も少し述べておきたい。

4月の初め、生徒インフォの窓口に来た生徒が成績の話題から「この学校の評定平均は大学で0.2 マイナスされると聞きました。」と言っていた。評定平均とは成績の A を5、B を4、C を3、D を2とした時の成績の平均値だ。生徒の話の真偽については定かでないが、確かに SIS の成績は他の学校に比べて高い方に偏った傾向がある。SIS だけでなく、ほとんどの高校が絶対評価で成績を付けているし、絶対評価ならば基準は評価者の判断に任されているので、平均を3にするというような必要はない。前向きな生徒が多く、少人数制教育を行っているので、授業の目標がより容易に達成されるのはもちろん

いいことだ。そして、教員が熱心に授業をしたり、入学者のレベルが上がっていたりするとしたら、評定平均が学校全体として上がっていくのも当然だ。

しかし、あまり評定平均が高くなりすぎると対外的な面だけでなく、評価としての意味合いが薄れてくるということも否めない。例えば80%以上の成績をAとしていてもその中にクラスの半数以上が入ってしまったら、一生懸命勉強して90%を超える成績を残した生徒にとってはAの価値が薄れたというように感じてしまうかもしれない。もちろん、成績なんてもっと広い視点からみればたいしたことではないし、自分自身に力がついたかどうかが一番重要であるという考えに私も賛成だ。その前提に立った上で、評定という「些細な」世界の中で考えて、より効率の良い方法を見つける必要があると思う。

自分が掲げた到達目標の最上部にクラスの多くが入ってくれた時、私ならば更に高い目標を掲げてみたいと思う。高い目標について来ることができない生徒を放っておくということではなく、それぞれのレベルで次の目標を用意するという意味においてだ。今Cの人はBを目指してもらいたいし、Bの人はAを目指してもらいたい。そういう授業を組み立てるのはたやすいことではないが、いろいろな生徒が集まるSISの宿命だと思う。(だから、おもしろい学校なのだ。)

評価は高ければいいというものではなく、努力の度合いや生徒の向き、不向きを知らせる指標になることもあるだろう。どんな生徒にもAは簡単に取れるものではないというのも、そんなに悪いことではない。それでも、できてしまう生徒達のために私はクラスにひとりだけというA+をこれまで用意してきたのだが…。とにかく、絶対評価をそれぞれの教員が工夫をしながら、より効果の上がる公正なものに消化していかなければならない。全般的に見るならば、SISはより高い到達目標を掲げる時期にきている。

「SISの評定平均は大学で0.3プラスされるらしいですよ。」なんていうわさもいつか聞いてみたい気がする。

(★前ページの続き)

もん、りこ、ちえみ、りん、悠子、わたる、将一、ひろみ、多佳子、かずき、りよんおぎ、ちとせ、宮ちゃん、えりな、さち、りさ。今まで大変でしんどかったけどみんな旅行企画できてほんま最高やった!!!! おつかれ♪ありがとう。みんなのおかげで企画することの辛さ、楽しさを味わうことができました。ありがとう。

もちろん旅行委員だけではなく、学年のみんなにもありがとうの気持ちでいっば

いです。旅行委員の決めた時間を守ってくれたり、パフォーマンスにも意欲的に参加してくれて、何事にも協力的でした。ありがとう。

そして、この旅行をするにあたって私たちの無理なワガママを毎回聞いてくれた宍井さんはじめ旅行会社の方々、私たちのプランを黙ってずっと見守り続けてくれた先生方、こんな楽しい旅行に連れて行かしてくれたスポンサーの保護者の

方々本当にありがとうございました。こんなにあつくて充実した楽しい旅行をつくられたのはみなさんのおかげです。

この旅行を通じて12年生の団結力は以前にもまして強くなったと思いました。今年は私たちがSISで過ごす最後の年です。この旅行から12年みんなで何事にもあつく、何事にもチャレンジして楽しい思い出をつくっていいーな!!!

学年だより

● 中部部1年生 (7年生)

新入生 56 名のスタートライン

見島直子

1組担任、国語科

入学後間もないある日のジャーナルに、一人の生徒が次のように書いてくれました。

「この学校は私の人生に大きな『くるい』をたくさん仕掛けてきそうだと、何故か顔がほころびながら感じます。だからこの学校が大好きなんです。」

これから始まる新しい学校生活、そこで成長していく未知数の自分に対する期待がとても上手に表現されていると思いませんか？このわくわくした期待感が多かれ少なかれ、新入生全員が共通して抱いているに違いありません。『くるい』は、『予想のつかないこと』『予想通りにいかないこと』と言い換えることができます。予想のつかないことが起こってこそ、毎日楽しい。予想通りに行かないからこそ、次なるチャレンジが可能になる。みなさんは、これからいろいろな新しいことにチャレンジし、そのチャレンジを通して自分の新しい可能性を広げていくことになります。しかし、「予想のつかないこと」、「予想通りにいかないこと」は「楽しい」と同時に、不安やストレスを伴うこともあるでしょう。時にはうまくいかず、自信を失ってしまうことだってあるかもしれません。その日うまくいかないことがあっても、ホームルームに帰ってくれば励ましてくれたり助けたりしてくれる仲間がいて、また明日がんばろうという気持ちになれる——ホームルームがそんな場所であればいいな、そんな場所にみんなで作ってあげればいいなと思っています。なにしろホームルームは皆さんにとって、学校における「ホーム」なのですから。

とは言え、実は入学してまだ2週間足らず。チャイムのならないこの学校で、次の授業の準備をし、時間に遅れないように教室移動をするだけでも精一杯と感じている人が多いようです。中には、通学かばんとは別に、校内で教室移動をするためのかばんを持ってくるという工夫をはじめた人もいます。また、初めの1週間は、各教科からのオリエンテーションがありさまざまな指示が出ました。連絡帳を

しっかりと活用して、授業に臨む準備を整えることが出来たでしょうか。まずは学校生活、特に授業のリズムに慣れることが目標です。それが出来るようになったころには、学園祭の準備が始まります。本格的なホームルーム活動の第一歩です。

さて、「くるい」を仕掛けられているのは生徒たちばかりではありません。私たち担任団も、「予想のつかない」生徒たち(!)を相手に、日々「くるわされ」、奮闘しています。でも、そこにもやはり期待の「わくわく」感があります。なぜなら、何度ホームルームを受け持ったとしても、そのつど全く違う雰囲気を持ったホームルームになるからです。つまり、今年度はどんなホームルームになるのか、どんなホームルームにしていくことができるのか、「予想がつかない」からです。それぞれのクラスに集まったひとりひとりの個性が、今年度は果たしてどんなハーモニーを作り出していくのでしょうか。いやはや、実に楽しみです。

● 中部部2年生 (8年生)

リーダーシップとメリハリ

井藤真由美

1組担任、英語科

7年生の担任が8年生に持ち上がるこのときが、六年一環のSISでは、もっとも「担任冥利に尽きる」瞬間かもしれないな、と思ひながら、4月の第一週目にこの原稿を書いています。

4月1日の入学式では、新入生の7年生を迎えながら一年前を思い出し、まず外見の成長にあらためてびっくりしました。生物学的に一番成長の著しいときだから当たり前とはいえ、13歳にとっての一年間の重みを感じます。

さらに、入学式のあとには新入生歓迎会と称して、入学式直後の7年生を迎え、「校内オリエンティング」と「クイズ大会」を開催したのですが、その様子を見て中身の成長についても大きく実感しました。この新入生歓迎会の中身は「歓迎会委員」の人たちが昨年度の冬学期の最後のほうから準備を始め、春休み中にも学校に出てきて細かいところまで計画を練り上げてくれていました。入学式当日の朝、委員の人たちが各教室で10分程度の時間でその中身と各自の役割分担を説明してくれたのですが、この時点で正直

私は一抹の不安を感じていました。全員にしっかりと責任が与えられた形で練られた計画。いろんな種類の仕事があるけれど、委員がすでに全員の役割もセルフも決めている。一人でも与えられた仕事に気が入らないというようなわがままを言う人がいたり自分の仕事を理解していない人がいたらこれは進まないぞ。。と。ですがそれは杞憂でした。失礼にも不安を感じたりしてごめんねとみんなに謝らないといけないですね。63人のメンバーがそれぞれ与えられた仕事をみごとにこなし、教員の力を必要とせず大きな行事をやり遂げてくれた8年生初日の活動に感動すらおぼえました。

8年生の春学期、学年として大きなテーマとしたいことは Respect for Leadership (リーダーシップを大切に) です。昨年の一年間は何かかもが初めての経験でしたから、あらゆる場面で教員がルールを敷くことは必要でした。ですが今年、私たち担任は裏方に回り、いろんな場面でそれぞれの生徒がリーダーとして行動するシステムをとります。Five Respect の授業でも学んだように、自分がリーダーになるときには責任感や全体を見る目を持つことが大切で、自分がリーダーではないときには、リーダーをしっかりサポートすることが求められます。まもなく生徒主導で学園祭に向けての話し合いも始まります。体も心もうんと大きくなった8年生の今年が楽しみです。

さて、話を入学式の日に戻しますが、その成長振り、とくに生徒主導でやり遂げた「歓迎会」の成功に感動したことは事実ですが、と同時に少々がっかりしたこともありました。入学式で私は8年生の生徒席に混ざって座っていたのですが、大変残念なことに、式の間中「しーっ」と人差し指をたてて周りの人に合図しないといけない場面が数回ありました。一年前のこの日は緊張感に包まれていて、隣の人とおしゃべりする人なんて一人もいなかったことと比べてどうでしょう？2年目で周りには友達がいっぱいいるし、緊張感も感じない、、、それはそうでしょうけれど、だからといって「入学式」という厳粛な場で、いくらささやき声だとはいえ、つい隣の人に話しかけてしまうという態度はいただけません。この「場をわきまえる」ということについては、今後も成長課題としてみんなで考えていく必要がありますね。普段

の生活でも、元気よく活動するときと口を閉ざすべき時との気持ちの切り替え、メリハリを意識して授業等にのぞんでほしいと思います。のびのびと自由に意見を言いやすい少人数クラスのこの学校だからこそ、このメリハリを身につけることが特に必要なのです。

ということで、要約しますと、リーダーシップとメリハリを重点テーマとして生徒たちのSISでの2年目の生活がますます充実したものとなるように、担任団三人、井藤眞由美（一組：英語科）真砂和典（二組：理科）馬場博史（三組：数学）サポートしていきたいと思っています。保護者の皆様一年間よろしく願いいたします。

● 中等部3年生（9年生） 中学校最終学年のスタート

難波和彦

1組担任、英語科

新9年生は、3人の新しい仲：1組 - 神崎眞子さん（イギリスより帰国）、2組 - 伊井那菜（アメリカより帰国）、3組 - 山本岳史くん（アメリカより帰国）を迎え、61人で中学校最終学年のスタートを切りました。今まで2年間2階で過ごしていたのが、HR教室も3階になり、朝と終わり2回あったSHRも朝だけになり、ちょっと気分も変わったのではないのでしょうか。

4月当初から学年で取り組んでいる大きなことは、2種類あります。ひとつは学園祭・もうひとつは修学旅行です。学園祭のほうは、今まで同様、お金を稼ぐことが目的でなく、クラスで協力して一つのことをやりとげること目標として、収益が出た場合は、学校全体のガイドラインに沿って、慈善団体に募金することになっています。学年の学園祭委員が、4月の1・2週目に集まって、今年もミルク募金に寄付をすることが決まっています。ミルク募金は7年生の冬にこれまでの学年同様に取り組んだことですが、その後も8年生の時に学園祭の収益金を寄付したり、代表の方が事故で入院されたときに、お見舞いを送らせていた



いたりして、よい関係が続いてきているので、自然な流れで決まりました。各クラス4月初日から、連日話し合いを続けてきて、この原稿執筆時点では、1組 - 食べ物にちなんだ劇をしてその食べ物を売る、2組 - 人探しゲーム + 飲み物販売、3組 - 先生たちの日常についてのドキュメンタリー映画、といったようにバラエティーに富んだものとなっています。学園祭本番ではどんなものができあがっているか、楽しみです。

もうひとつは、修学旅行です。実際に行くのは、秋学期の10月あたりになるわけですが、早く決めれば候補地や活動内容もいろいろなところから選べる、ということで、こちらも8年生の冬学期から、学年全体でグループに分かれて、リサーチ・プレゼンをするなどして、取り組んできました。8年生終わりの時点では、修学旅行の目的として、「楽しく学んで、大人になっても忘れない思い出を、友達とつくる」という標語も決まりました。4月最初に修学旅行委員会が発足し、旅行会社の人もミーティングをし、4月中には候補地が決定する見込みです。その後、旅行本番までは、時間をかけて修学旅行委員がリーダーシップを取り、内容についていろいろなことを決めていきます。上記の目的に入っているように、「楽しむ」という面と「学び」の機会にする、ということをしっかりおさえて、いい思い出をつくってほしいと願っています。

担任団は、1組 - 英語科難波(K)、2組 - 体育科加納、3組 - 社会科中村(R)と昨年と同じメンバーです。中学卒業までの1年間よろしく願いします。

● 高等部1年生（10年生） 担任全員からの寄せ書きです

今回は10年生の担任全員が寄せ書きをすることにしました。

入学式の新入生紹介・・・担任がクラスの一人ずつを順に紹介していきます。名前を呼ぶと緊張した面持ちで返事をして立ち上がり、ちょこっと会釈して座ってホッとした笑顔。みんなちょっとはずかしくって、ちょっとうれしい。それが体からにじみ出ていました。とっても新鮮で、さわやかで、ワクワク感があって、高校生になったよ！って感じがしました。ああいいなあって思えた入学式でした。

さあ高校生活が始まりました。人生で一番楽しい頃と言う人もいる高校時代。ためらっていないで、様子を見ていないで、まずは始めてみよう、動いてみよう。動けばかならず次が見えてくる。楽しいことでも苦しいことでも、いろんなことに挑戦しいろんな経験をすることで、自分を磨く。そしたら自分が見えてくる、何をすればいいか見えてくる。器のでかい人間になって可能性がいっぱいの人生を生きていこうよ・・・などなど、君たちへのおもいがいっぱい頭によぎります。僕も今、なんかワクワクしています。一緒に最高の1年にしていきたいと思います。(1組 田中 守)

はじめまして。今年から10年生の仲間入りを果たした牧百合子です。「仲間入り」と言っても生徒ではないので、そのあたり、ご了承願います。確かに、生徒と並んで座っていると生徒に間違われるので、どうやら先生らしきオーラは少ないようですが、その分、生徒のみなさんとは近い距離でものごとに取り組んでいけるのだと自負しています。担任は2組、担当教科は国語です。みなさんとは古典や現代文の授業で出会うことになるのですが、授業中、それ以外の区別なく「一に挨拶、二に笑顔！」これが本年度私自身の標語です。今までもそれを守ってきたつもりですが、忙しさなどに負けてしまう時もあったので、今年はいつでもこの標語を守ろう！と決めたのです。そして、やる気と元気のある10年生をはじめ、全生徒のみなさんにも、これをちょっと押し付けたいと思います。ひとりひとりが自慢のスマイルで挨拶し、周囲を明るくしてってください。そんなこんなしてるうちに、生徒も教員も保護者の方も、果てには学校には何の関係もない方までもが明るく過ごせる一年になればいいなあとしみじみ思いながら、はじめましてのご挨拶（見えないかとは思いますが）笑顔で終えたいと思います。(2組 牧百合子)

3組担任の志垣満理です。SISに長くいるのですが、実は10年生の担任は、初めてで、少しどきどきしています。環境の変化は少なくとも、また新たなスタート。それは、内部進学生も一緒かな。新たな仲間を迎えて始った高校生活。一人ひとりが自分の道を見つけてゆくという点から見ても、これからの人生にとっても大きな意味のある大切な時期です。お互い刺激しあったり、助け合ったりして、今よりもひと周りもふた周りも大きな人に育っていかればと期待します。と大きな事をいっても、まずは学園祭に向けて、共に準備などを通して友達同士のつながりや、新たな関係を育てて行ってくれればと思っています。パワフルな学年なので、そのエネルギーを活かし、一味違う10年生を目指して行きましょう。よろしくお願いいたします。(3組 志垣満理)

Dear Grade 10 students,

We started the school year with a warm welcome to 14 new students who joined our grade from April. It was wonderful to see so many SIS veterans from our grade volunteer for the new students' orientation. SIS can be confusing place, and I urge our veteran students to continue assisting our new members in any way possible.

At present, each homeroom is working towards the school festival. I look forward to seeing the energy and creativity of our grade as we prepare for this important school event. I also hope that you think about your individual goals as we start the school year. It is a pleasure to work with you as you all mature into young adults, and to learn together with you throughout the year. (Class-4 Shami Datta)



●高等部2年生 (11年生)

ひとつずつ着実に

合志智子

1組担任、情報科

高等部2年生は2組に伊井康人君、4組に中矢来美さんの2名の仲間が増え、87名でスタートしました。今年度は1組合志(情報科)、2組田中憲三(数学科)、3組池田(社会科)、4組山本(英語科)の4名で、気持ちも新たに学年のみなさんをしっかりサポートしていきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

学年の仲間も教室の場所も、実は昨年度とほとんど変わりのない高等部2年生ですが、新学期が始まってからのこの2週間でいくつかの頼もしい場面を目撃しています。入学式後の会場の後片付けでは、会場設営をした昨年よりも数段手際の良い動きをしてくれました。学年旅行への取り組みでは、行き先を話し合う段階はまだ先ですが、週に一度の旅行委員会での話し合いの中で、ひとつ意見が出て簡単に「じゃあ、それにしよう」とならず、いろんな場合を想定して考えたり、しっかり討論ができたりにしています。また、話し合いの中でさりげなく、「日ごろ学校できっちり毎日過ごせていなくて、学年旅行でもきちんと行動ができるわけがないと思うよ。」という発言が出てくるのを聞いて、昨年度から持ち越したいくつかの課題を1つ1つ、自分たちの手できっと克服してくれるだろうと期待しています。

高等部2年生は生徒会やクラブ活動などで、中心となって活躍する場が多くなります。学園祭やスポーツデイなどの学校行事や課外活動では、責任ある行動とリーダーシップを大切にして、一人一人が持っている力を合わせてSIS高等部をいっそう魅力的なものにしてください。

そして2年後には、それぞれが自分で思い描く将来へ向けて笑顔で出発できるよう、日々の学習ではしっかりと取り組むをし、自分の進路についてしっかり考える時間を持ってほしいと思います。そのためにも一日一日を大切に過ごしましょう。担任団はクラスの枠を越えて、皆さんと共にじっくり考え、話をし、学年全体の成長を見守りたいと思っています。

●高等部3年生(12年生)

がんばれ最高学年!

水口 香

3組担任、英語科

新緑の季節、新生活に心を弾ませ、新たな一年が始まりました。とうとう新12年生は、最高学年に! これまでは上級生を頼りに、彼らの背中を見ながら行動してきましたが、今度は下級生に模範となる行動を示さなくてはならない立場になりました。この重責を自覚し、学園全体のために働きかけられるような存在になってくれることを楽しみにしています。

思えば昨年、学園祭、スポーツデイと学年目標に向かって皆で取り組み、学年間で「団結力」と「達成感」を得ることができました。また3月の学年旅行(台湾)では新たに「自信」と「絆」を生み出すことができました。特に半年がかりで組み立てた学年旅行では、幾度となく壁にぶつかりながらも、工夫を重ね、挑戦していく中で強い絆を育むことができました。たとえその時うまくいかなくても、それは次への課題として前向きに受け止め、一人一人の意見を尊重し、思案を重ね、誠意をもって行動する姿勢を守りました。私自身、新12年生がこのような形でSISの精神を実現できるまでに成長したことを嬉しく思います。SISの精神が詰まった最高学年は最高です! これから1年、更なる成長を期待しています。



千里国際学園図書館によろこそ

青山比呂乃

図書館

* 図書館紹介

新入生、編入生のみなさん、千里国際学園図書館によろこそ。

玄関に入ってすぐ目の間にある図書館には、2名の教員以外に図書館スタッフ2名が全日、2名は半日ずついます。また、図書館2階は、語学学習センター、マルチメディアコンピュータ教室、OIS情報科研究室IT室がはいったマルチメディアフロアで、OISITの先生のほかに、図書館スタッフが交替で1名常駐し、ITスタッフも2名(内1名は図書館スタッフ兼任)常駐しています。

図書館1階には118席用意していますが、授業で使われる事も多く、空き時間の生徒も含めて、いっぱいになってしまうこともあります。SISとOIS両方の学校、つまり幼稚園から高3までの700名ほどの生徒、また教員職員、保護者の方々、しかも世界各国の文化的背景を持つ人たちが皆で使う図書館です。お互いに気持ち良く使えるように、心掛けましょう。

また、学園では通常4時半が下校時刻になっていますが、図書館は中高生の為に開館延長をされていて、サインナップシートに必要事項を記入する事で6時まで図書館に残って勉強する事ができます。ただし、8年生までは、担任の先生のサインのある許可証も必要になります。

なお、図書館は生徒の利用の妨げにならない範囲で保護者も利用することができます。初めて利用する際には、スタッフに声を掛けてください。利用の規則は生徒と同じです。ただし、本を借りる場合は、貸出デスクで登録の手続きをしたうえで、ご本人の責任において借出・返却をしてください。生徒が保護者の名前で、または保護者が生徒の名前で本を借りることはできません。

家族の方が読書にいそまれる姿は、生徒達にもきつといい影響を与えていると思いますので、どうぞご利用ください。

* 日本語図書歴代貸出記録

毎年恒例になった日本語図書最多貸出記録の報告です。今回は、3月に卒業した学年の6位までと、今までの歴代

の記録を紹介します。

2008年3月卒業生 日本語図書最多貸出記録(6年間在籍)

- 1位:古岡祐輝くん 235冊(4年半在籍)
2位:吉積 彩さん 228冊
3位:天牛美矢子さん 226冊
4位:岩本麻里さん 212冊
5位:清水 航くん 196冊(5年半在籍)
6位:渡場文恵さん 184冊
なお、3年間で、相当数借りた人も挙げておきます。

10位:中嶋 光さん 99冊(3年間在籍)
1997~2008年歴代卒業生最多貸出記録

- 1位:2002年 刺賀蘭里さん 1043冊
2位:2006年 馬場宏高くん 979冊
3位:2002年 新井隼子さん 445冊
4位:1998年 沼田貴範くん 376冊
5位:2003年 角田 瞳さん 346冊
6位:2001年 松宮寧子さん 328冊
2003年 伊藤 愛さん 328冊
2005年 曹 千紘さん 328冊
7位:2004年 有田 梓さん 305冊
8位:1999年 井上愛子さん 302冊
9位:1997年 廣瀬裕紀子さん 291冊
10位:2007年 大竹香織さん 280冊
11位:2008年 古岡祐輝くん 235冊
12位:2000年 辻本亜紀さん 214冊

残念ながら、コンピュータシステム上の違いから、英語図書の記録はありません。いろんな意味で簡単には誰が一番とは言えないのですが、一つの記録としてみてください。

新入生の皆さんもぜひたくさん借りて、この記録を追い越してくださいね!

* 保護者ボランティア近況

この1年、SIS保護者1名の方が、継続的に図書館の仕事のお手伝いをしてくださっています。おかげで、PCの貸出や利用統計のまとめ、長期休暇後の新聞整理、生徒の図書委員が忙しくしてあまり配架(返却本を元に直す作業)が進まなかった間、乱れた本棚の整理ができました。ありがとうございました。

* 蔵書点検報告

昨年度末、3月12日冬学期最終日の

午後から14日の3日間に蔵書点検をしました。今回は、15名の人がボランティアで汗を流してくれました。内訳は、旧中1 3名 中2 1名、中3 2名、高1 3名、高2 4名、高3 1名で、内男子は2名、さらに普段から図書館ボランティアをしてくださっている保護者も1名の参加でした。1日目は、明後日から学年旅行の11年生、2日目には、初日は卒業式だった9年生も先日卒業した12年生も参加してくれました。(3日目はスタッフのみ)

今回は、図書館システムを変えてから初めての点検で、例年より人数が少なく、1日や半日しか来られない人がほとんどだったので、全部作業を終えられるかどうか危ぶんでいたのですが、毎年手伝ってくれているベテランが多く、初めて参加した7・8年や11年生も良く働いてくれて、おかげで、約3万冊の日本語図書のデータを全て入力し、日英の書架をすべてきれいに整理、掃除することができました。丸2日間、びっちり働いてくれた人もいて、たいへん助かりました。本当にどうもありがとう。

なお、その結果はまだ整理中で、今回のインターカルチャーで発見図書、行方不明図書リストを発表する予定です。



Speaking Performance class presents Twelve Angry Jurors

Peter Heimer

English

Reginald Rose's play *Twelve Angry Men* was produced as an award-winning film in 1957 and has enjoyed classic status since. The play has been frequently performed at American high schools for the past 50 years, was remade as a TV drama in 1997, enjoyed a Broadway revival in 2004, and ran as a US theater tour in 2007. A quick YouTube search will bring up many online video performances. And if all that is not enough, you could have watched a live performance here at SOIS as the Speaking Performance class presented the play three times in March. Despite having only a limited amount of class time to prepare and rehearse, the students ably performed a 50-minute condensed version of the play.

The action revolves around the tense deliberation of twelve jurors as they debate whether or not an unseen defendant is guilty of the murder of his father. The play portrays the merits and flaws of the US trial system and exposes the prejudice and bigotry found in many of us as we rush to make judgments without all the facts. The themes of the play remain relevant and the interactions among the characters present wonderful "speaking performance" opportunities for

students. With thirteen roles in the play and thirteen students in the class, the piece was a perfect performance choice for the Speaking Performance class. Because the class contained men and women, the title of the play was changed to *Twelve Angry Jurors*.

The play is famous for its use of only one set; it requires minimal blocking and few props, so it was possible to stage the play in the third floor conference room with audience members seated in a circle around the jurors' table.

Special thanks goes to five recently graduated SIS seniors – Miho Sugiura, Yuritzi Lopez Amezcua, Yuko Hara, Emi Mizuguchi, Eri Sano – who returned to school after they had graduated in order to play key roles in the play. Thanks also go to the classes of Mr. Zarouba, Ms. Rennie, Ms. Melville-Rea, Ms. Brown, and Mr. Sommer for their attendance. And congratulations to all of the Speaking Performance students on their success.

Members of the 2007 winter SIS Speaking Performance: Miho Sugiura, Yuritzi Lopez Amezcua, Yuko Hara, Emi Mizuguchi, Eri Sano, Eri Sumoyama, Mai Kawaharada, Jude Aki-Field, Yukiko Tahara, Aysha Cabrini, Ayuka Miyamae, Shun Nishimoto, Rui Yamaguchi.

英語電子辞書についてのお知らせ

難波和彦

英語科

これまで、学校で電子辞書が購入できるようにしてきましたが、このモデル自体が数年前のものとなっていて、他の店やインターネットなど、同程度の機能のものがさらに安く購入することができます。このメーカーのほうでも、学校用の販売をとりやめることになっていますので、学校での電子辞書の販売は終了することとなりました。今後は、英語科からのお薦めというかたちで、モデル名をいくつかあげる形にさせていただきますと考えています。

英語科として2008年4月時点でお薦めするのは、次のセイコー、カシオ、シャープ社製のモデルです。

SEIKO: SR-ME7200, SR-E8600, Casio: XD-SP9500, SHARP: Papyrus PW-LT300

これまでの学校ではんばいしてきたモデルが25000円だったので、その価格帯から選びました。Amazon.co.jpで調べてみたところ(4月12日現在)、24497円から33440円の範囲です。ポイントは、しっかりと英英辞典が入っているということです。本校で6年間英語の授業を受けることを考えると、英和や和英だけではなく、英英辞典も使うことが必要になってきます。ここでご紹介しているモデルには、いわゆる学習者用の英英辞典(Oxford Advanced Learners DictionaryやLongman Dictionary of Contemporary Englishなど)に加えてネイティブ

でも使える本格的な英英辞典(Oxford Dictionary of EnglishやConcise Oxford English Dictionary)などが入っています。学習者用の英英辞典は、文法や発音などの説明がわかりやすく丁寧で、ネイティブ用の英英辞典は、より難しい言葉が載っていて、説明の文章は難しいのですがより細かなニュアンスがわかります。これ以外に入っている辞書は、ジーニアス英和大辞典、和英辞典(メーカー機種によってちがいます)、といった定番の英和・和英辞典、自分で英文を作るときに、どんな語を組み合わせて使ったらいいのかを教えてくれる辞典-英和活用大辞典+Oxford Collocation Dictionary、英文を書くときに表現の幅をひろげてくれるThesaurus(類語辞典)、翻訳に役立つリーダーズ英和辞典といった、英語学習・英語で仕事をしていくのに必要な辞書類です。このモデル以外で、選ばれても、もちろんかまわないと思います。それぞれの生徒の英語レベルもありますので、ここまでは必要ない、と思われるかもしれませんが、英語科の教員としては、この辞書を使いこなせるような生徒になってほしい、という期待があります。これよりもさらに高価なものがあり、さらに多くのコンテンツ、手書きパッドや、見やすい液晶などの機能面でも、いろいろな特徴があります。高い買い物になりますし、一度買うと5,6年は使い続けるものになると思われるので、お店などで現物を見られた上で、購入されることをお勧めします。ご相談をされたい方は、メールで連絡をください。knamba@senri.ed.jp

英検1級に1名合格

水口 香

英語科

2008年4月4日までに報告があった2007年度第3回英語検定試験(2008年1月実施)の合格者数をお知らせいたします。

- 1級 1名
- 準1級 3名(OIS 1名含む)
- 2級 7名
- 準2級 4名

英検1級に、森英里子さん(SIS12年)が合格しました。また平成19年度1級合格者の中から、林ちさとさん(SIS10年)が生涯学習奨励賞に選ばれ、また、大倉敬太郎君(SIS10年)が1級優良賞を受賞しました。おめでとうございます。今後の活躍を期待しています。

(編集部追記) SIS 高等部では英検2級以上合格が単位認定されています。学校を通して受験しなかった場合や、他の検定試験結果も掲載いたします。編集部までお知らせください。



森英里子さん

数検合格が単位認定されます

馬場博史

数学科

◆数検単位認定のお知らせ

2008年度からSIS高等部で数検準2級以上が単位認定されることになりました。準2級で数学Ⅰ、2級で数学Ⅱ、準1級または1級で数学Ⅲの増加単位が与えられます。複数の級に合格しても単位認定は1回限り2単位ですが、単位を増加する科目名はあとで変更できます。

◆数検団体受検実施

4月13日(日)本校で初めての数検団体受検が実施され、中高11名の生徒が5~準2級を受検しました。受検希望者が10名以上集まれば団体受検を実施することができます。次回は秋に予定しています。奮って挑戦して下さい。

◆数学メーリングリスト登録のご案内

近年増加している大学の高校生向け公開講座や出張講義などに出席することによって、より高いレベルの教養を身につけることができます。またこれらのプログラムに参加し、新鮮な刺激を受けることで、今後の学習目標や将来の進路を考える動機づけにもなります。ほとんどのプログラムは無料で受講することができます。数学が好きな人、理数系への進学を考えている人は積極的に参加してください。

<申し込み>最新の連絡は主にメーリングリスト登録者へのEメールとSIS数学科(W214)前の掲示で行いますので、興味のある人はhbaba@senri.ed.jpまで登録しておいてください。保護者の方もどうぞ。

情報処理技術者試験合格が単位認定されます

合志智子

情報科

2008年度からSIS高等部では情報処理技術者試験の試験合格者に、単位が認定されることになりました。単位認定は合格1つにつき2単位です。申請した学年時の増加単位(情報C)として、与えられます。情報処理技術者試験は、経済産

業省が情報処理技術者としての「知識・技能」の水準がある程度以上であることを認定している国家試験です。「独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)」が実施しています。現在、試験区分は14ありますが、高校生がチャレンジできそうなものとして以下の2つを紹介します。試験の詳細を知りたい方は、下記のリンクを参照または情報科に聞きにきてください。

試験区分	試験の時期	試験の対象者
初級システムアドミニストレータ試験 (AD)	春・秋	利用者側において、情報技術に関する一定の知識・技能をもち、部門内又はグループ内の情報化を利用者の立場から推進する者
基本情報システム技術者試験 (FE)	春・秋	情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者(情報システム開発プロジェクトにおいて、プログラム設計書を作成し、プログラムの開発を行い、単体テストまでの一連のプロセスを担当しているか、将来、そのような業務を担当する者を含む)

情報処理技術者試験のWEBサイト IPA 情報処理推進機構 情報処理技術者試験 <http://www.jitec.jp/>

大阪大学連携講座

放課後に大学の授業を受けることができます

5年前から始まった大阪外国語大学との高大連携事業が、大阪大学との合併により今年の内容を変えて動き出しました。具体的には以下のような要領で実施されますが、これまでと大きく異なるのは募集人数が少なく、これを近隣の10校で分け合うため調整で最終決定することです。開講される授業も理系のものが多くなっています。

期間：2008年4月7日(月)から8月1日(金)頃または夏季集中授業
時間：指定された曜日と時間(5時限は16:20～17:50 3時限は13:00～14:30)

夏季集中授業の日程は6月にならないと決定されないそうです。

場所：大阪大学の吹田、豊中キャンパスなど

費用：1科目につき受講料4600円とクラスによってはテキスト代など

対象：2008年4月時点での高等部2年もしくは3年生

内容：右にある授業を阪大の学生と一緒に受講することができます。更に詳しいシラバス(内容)は掲示板に貼ります。生徒インフォメーションセンターで必要なページのコピーをもらうこともできます。

単位認定：これらの授業をきちんと履修した時は千里国際学園高等部の単位(総合科目「文化研究」)として1単位を認定します。

申し込み：申込用紙に必要事項を記入して生徒インフォメーションセンターに提出してください。希望者が定員を超えた場合には北野高校で調整をしますので、これに参加する予定もしておいてください。

注意事項：授業には各自で阪大の各キャンパスに行ってもらふことが必要となります。本校教員の引率はありません。通学時の万一の事故については通常の登下校時と同様、日本スポーツ振興センターの保険の対象になりますが、交通手段などは各自に任せられます。帰宅時間も遅くなるので、家庭のご理解が必要です。授業では、大学生と同等に扱われ、十分な予習や復習を要求されることもあるので、準備不足などで中途半端にならないようにしっかり計画を立てておきましょう。授業は、本校が夏休みに入った後も続くことにも注意してください。

子どもの現在
社会科学の名著を読む
原子核を見る
地球環境計測入門(体験的授業)
化学フロンティアⅢ(熱・エントロピー・物質)
化学フロンティアⅣ(化学反応の魅力)
化学フロンティアⅦ(カフェインの抽出と酵素のはたらき)
化学フロンティアⅨ(自然共生高分子)
蛋白質や遺伝子を楽しもう! A
生物の体をつくるしくみ
ナノサイエンスの世界
出産を考える
創薬化学の最前線への誘い
生命とくすり
環境と化学物質植物を知り、植物に学ぶ
錯体化学の基礎と応用
ナノ構造制御バイオマテリアル
精密科学の世界Ⅰ-分子を操る-
体験型プロジェクトを通じて学ぶ工学設計の世界
宇宙への旅:材料の役割
ナノテクノロジーが拓く新しい材料プロセッシング
新エネルギーと新材料
エレクトロニクス最前線
社会と情報通信-時・空を越えて-
ユビキタスネットワーク社会の情報システム
大阪の町を読む
インターネットで英語に強くなる
原子分子のおはなし
飛行機とロケット技術
海の科学
船・この巨大で力強い輸送システム
建築・町を見る
量子力学の不思議な世界-磁石から超伝導へ-
インターネットによる情報発信
研究の現場探訪-化学の工学-
極限条件下の物質科学-酸素が超伝導に!-
ナノテクノロジーの最前線
エネルギーと環境-分子から地球まで-
ナノサイエンス-微小世界の未来科学-

命～ピクっ～

弥永千穂

スクールナース

あなたの体のおおもとはこの世にでてくる5ヶ月くらい前、お母さんのお腹にいる間にはすでに出来上がっていました。超音波検査では目、鼻、口、小さな足や指もみえ、男の子か女の子か分かります。その頃はまだ手のひらサイズで400gくらいの重さ。小さな体は回転してみたり、パンチやキックをくりだしたりと動き始めます。私も赤ちゃんの動きを感じるようになりました。ピクッと感じる時もあれば宙返りでもしているような勢いの時も。あなたは暴れんぼうさんだったでしょうか?この妊娠をとおしてあらためて命の神秘、人間の成長のすばらしさを感じています。誰もがこのように

子宮の中で成長をしこの世に生まれてきたのです。みなさんはまだ成長途中ですが、実は生殖機能はほぼ大人。すでに命をつくることのできる体なのです。命は精子と卵が出会ってもたらされます。精子と卵の出会う機会があれば愛があってもなくても、はじめてのセックスであっても新たな命が生まれる可能性があることを忘れないでくださいね。いつかあなたが愛する人と出会い、その人と赤ちゃんが欲しいという時に新しい命を迎えるのが一番ですよね。そうやってみなさんがこの世に迎えられるように。自分の体を大切にしていましょ。保健室は性に関して授業の中では聞けないことを話せる場所でもあります。どうぞ気軽におしゃべりに来てくださいね。

APAC サッカー男女とも5位



APAC Girls Soccer

Derek Entwistle

PE

APAC girls soccer was held in Seoul this year and it was with cautious optimism, after proving victorious in the local Nagoya tournament, the SOIS team arrived on Wednesday. The team were greeted by glorious sunny weather (in direct contrast to the boys in Kobe....).

The tournament started in earnest Thursday morning with a repeat of the 2007 final between Shanghai and Seoul with Shanghai handing out an awesome and crushing football lesson. After witnessing the size and speed of these teams it was with mounting trepidation that SOIS suited up ready to do battle. But once the whistle blew it was all business and for the next 3 days our girls truly did themselves and the school proud. We were competitive in every game and the 3rd day and final game saw us with a chance to make the final. A win to make the final, a draw to see us in the 3rd/4th game and only a loss could relegate us to the 5th and 6th game. Unfortunately, it was our often nemesis, Canadian Academy, who, scoring in the final minute of the game sent us out from finals contention. There was much sobbing, wails of disappointment and bowed heads (mainly from Kamran Baig and myself) but in true SOIS fashion we managed to pull it all together and fought out a draw against Brent. The ensuing penalty shootout saw our great keeper, Erika Kageyama, making a couple of

awesome saves to secure a 5th place result.

Erika and Haruka Arai were voted onto the allstar team but many other players also had a good tournament. Notable performers included Saki Nawata and Sachi Yoshida in midfield, Emily Taura as sweeper and Sam Syrad up forward. ALL 17 players are to be commended for their efforts and were, as is so often the case, a credit to themselves, their families and the school.

Mr Baig and I would sincerely like to thank them for their efforts this year in what has proven to be our final APAC appearance and we look forward to the challenges and exciting prospects that are taking shape for next year.

We hope to see all the girls along with all enthusiastic newcomers next year.



APAC BOYS SOCCER 2008 in Kobe

Simon Parker

PE

This year's APAC Soccer Tournament for boys was held at the home of our fiercest rivals and greatest friends, Canadian Academy, and it was another fantastic experience for the 19 students who took part. Three days of tough competition in some atrocious weather conditions, renewing old friendships and making new ones, left the students exhausted come Saturday night.

The tournament itself had more

than it's fair share of drama for all the competing teams not least because of the driving rain and gale force winds that plagued Thursday and Friday. Our team started out so brightly in the first half of their first game on the waterlogged pitch and were dominant against an ISB side who rarely put together any attacking movement at all. However after such a bright first half we fell away in the second period and rather disappointingly lost the game by 1-0. This did seem to dampen spirits a little, but with the valiant efforts of Seiya Cooke (SIS 12) and Rico Chow (OIS 12) to pull everyone together, we managed to raise our game and really played just excellently against a very strong Seoul team in the afternoon. We ran out losing the game by 3-1 but it was much closer than the scoreline suggests and indeed was extremely tight coming into the final 10 minutes.

And so Friday came and so did yet more rain. A tie with Shanghai and a win against Brent left us in reasonable shape on Friday afternoon, knowing that a win against CA on Saturday morning would put us in the 3rd/4th place game. In much better conditions we made a very bright start to the CA game and took the lead through Carlos Esquivel (OIS 10). However we ended up in a 1-1 tie which left us playing Brent again for 5th/6th place. This game we won comfortably and

(次ページ★に続く)

★ APAC とは、Asia Pacific Activities Conference の略称で、次の学校が加盟しています。＜ APAC 参加校＞北京インターナショナル・スクール (ISB: 中国)、上海アメリカン・スクール (SAS: 中国)、ブレント・インターナショナル・スクール・マニラ (Brent: フィリピン)、ソウル・フォーリン・スクール (SFS: 韓国)、カナディアン・アカデミー (CA: 神戸)、千里国際学園 (SIS/OIS: 大阪)

学園祭テーマは「ファンタジー」

高等部生徒会

学園祭

本年度の学園祭は、5月24日(土)に行われます。学園祭の運営は、HS生徒会執行部によって構成された学園祭製作委員会、生徒会メンバーの仕事をサポートしてくれる各出店団体(クラス・クラブ)から選ばれた代表委員(店係、美化係、備品係)によって行われます。

テーマ

学園祭には毎年テーマが設けられています。これは学園全体が同じ目標に向けて取り組むためのものであり、テーマは生徒によって提案され生徒議会によって予備投票され決定しています。各クラス・クラブは店の外見・名前・内容等、テーマに沿った模擬店を出店して下さい。今年のテーマは「ファンタジー」です。

学園祭当日のスケジュール

8:30 ホームルーム 出欠をとる

8:45-9:30 小学部パフォーマンス(シアター)

9:30 学園祭開始 パフォーマンス開始

14:30 学園祭終了 掃除開始

15:00 部外者は校舎外へ

15:30 掃除終了 クラス解散

15:30 後夜祭開始

18:30 後夜祭終了

学園祭製作委員会 who's who? & 各係の仕事

☆学園祭 TOP

・学園祭 TOPとは、学園祭製作委員をまとめ、学園祭全体の運営を指揮します。質問・意見・苦情等、何でもお尋ね下さい。

・本年度の学園祭 TOPは荒井遥(SIS12)と Akira Moriguchi (OIS12) です。

☆店係

・店係 TOPの仕事は、各店舗の配置を決定、出店の際のアドバイス等を店係に伝えます。

・各クラス・クラブからの店係は主に、自分たちのお店に対して責任を負います。店係 TOPによる生徒会からの出店の際のアドバイスや注意をクラス代表として聞き、それを皆に伝えます。主に学園祭前日までの仕事です。

・本年度の店係 TOPは亀井潤(SIS12)と梁井彩(SIS12)です。

☆パフォーマンス係

・パフォーマンス TOPの仕事は、学園祭当日ステージで行われるパフォーマンスのスケジュール・運営を担当します。

・本年度の野外パフォーマンス TOPは佐々木愛(SIS12)と Yuma Kennedy (OIS12)です。

☆美化係

・美化係 TOPの仕事は、各店舗から出たゴミの処分方法、ゴミのリサイクルや削減のアドバイス、学園祭全体のゴミについて説明会を開き、各団体の美化係に伝えます。

・各クラス・クラブからの美化係は主に自分たちのクラスから出たゴミの処分方法などを聞きに行き、ゴミに対する責任を持ちます。自分達の店のゴミが学園祭の当日、正しく分類されているかチェックしてください。(この時、クラスメート・お客さんにもきちんと分類するように促してください。)

・本年度の美化係 TOPは山口留以(SIS11)です。

☆備品係

・備品係 TOPの仕事は、各店舗が出店時に必要な学校の備品、おもにロープ・ブルーシート・テント、そして机と椅子の貸し出しを管理し、説明会を開きます。また、その他必要な備品についての質問・相談を受けます。

・出店に必要な備品(ロープ・ブルーシート・テント・椅子・机等)の管理を担当します。学園祭前日に備品を取りにきてもらい、当日も片付けの際に返却などの仕事が少しあります。

・本年度の備品係 TOPは Mai Iida (OIS11)です。

☆デコレーション係

・デコレーション係 TOPは学園祭のデコレーションを担当し、デコレーションのボランティアのミーティングの日時を決めます。デコレーションは、この年のテーマに沿っていることが求められます。テーマに沿った飾り付けをするのが主な仕事です。

・本年度のデコレーション係 TOPは Arisa Nishimura (OIS12) と Sun-min Lee (OIS11)です。

☆会計

・学園祭製作委員会で通用されるお金の管理をします。

・この会計の仕事は生徒会執行部の現・会計佐々木愛(SIS11)と Sun-Min Lee (OIS11)が担当します。

収益金

OISでは収益金を各学年で基金口座に入金し、最終的には12年生のクラスコミュニティサービス旅行の一部に使います。(Habitat For Humanity など)

(次ページ★に続く)

(★前ページの続き)

took 5th place for the second year in a row.

Outstanding performances all week from so many students. But particularly of note were Seiya Cooke (SIS 12), Shun Kanezaki (SIS 10) Nobuhiko Kojima (SIS 11) Yuki Yasumoto (SIS

10) and Carlos Esquivel (OIS 10) all who played pretty much every minute of every game and all who gave absolutely everything to the cause. Seiya and Shun were quite deservedly voted on to the All Star Team by the coaches.

All that remains is for me to say a

huge thanks to our departing seniors, Seiya, Tsubasa and Rico, and wish them all the best for the future. Also a big thanks to Mr. Walker for all his time and effort this season and for his good humour always! Otsukaresama-deshita.....

21世紀の「平和」とは何だろう？

野島大輔

社会科（研究のため休職中）

テロリズムや国家テロリズムが各地で渦巻く、混迷の21世紀の世界にあって、重鎮・精鋭の研究者たちが、いま「平和」とは何か、を論じた『平和運動と平和主義の現在』（千葉眞編、風行社）がこのほど刊行になり、私が翻訳担当者の一人となっています。この本は国際基督教大学（ICU）の広域平和研究プロジェクトの成果の一端をまとめたもので、類書の中でも迫力のある、特に重厚な仕上がりと なっています。ご関心のある方はぜひ一読をお勧めします（千里国際学園の図書館にもあります）。このシリーズは今春続々と発刊され、全9巻の刊行が予定されています。

（★前ページの続き）

SIS 学園祭における収益の使い方ガイドライン

1. 学校のために使う

これを目的とするブースは、学園祭で出た利益を学校のために使います。

EX: バasketボールのゴールに新しいネットをつける、新しい時計を買う、フィールドの整備に使う、など。

2. どこかの団体に役立てる

これを目的とするブースは、利益を国内のどこかの団体や国際機関などに役立てます。

EX: School to School, ARK, Nets to Nets, 釜が崎など。

3. 利益を出さない

これを目的とするケースは、利益を出しません。学園祭に来てくださったお客さんを楽しませることや、社会問題をもっと多くの人に知らせることを目的とします。

陸上競技大会で活躍

馬場博史

トライアスロンクラブ・テニシングクラブコーチ、数学科

■吹田市長杯陸上競技大会

4月20日（日）吹田市総合運動場で開催され、SIS/OISから18名が参加。うち7名が入賞しました。

<入賞者>

高校男子 5000m 1位小澤悠 (SIS12)、2位池田憲治 (SIS10)、3位清水稜太 (SIS11)、1500m 1位高橋直人 (SIS11)、2位 James Freijah (OIS10)、高校女子 1500m 3位為岡稚子 (SIS11)、壮年男子 3000m 1位馬場博史 (教員)

<完走者>

中学女子 800m 榎野弘奈 (SIS8)、秋山裕理 (SIS8)、Mari Hatanaka (OIS8)、1500m Mari Hatanaka (OIS8)、中学男子 1500m 田和良真 (SIS9)、萱嶋智 (SIS8)、榎木耀 (SIS8)、3000m Kento Baba (OIS9)、藤見洋佑 (SIS8)、高校女子 1500m 津高毬絵 (SIS11)、3000m 森岡瑛美 (SIS11)、高校男子 1500m 藤井資也 (SIS10)

■部員募集

トライアスロンクラブは、水泳・自転車・ランニングの練習をし、週末は多くの大会に出場しています。ランニングクラブはランニングの練習だけをトライアスロンクラブと一緒にを行います。トライアスロンクラブの練習日程は次のとおりです。月曜・木曜 Run & Swim 16:00-17:30、火曜・金曜 Run & Bike 16:00-17:30、水曜 Run のみ 16:00-17:00。練習は一年中毎日（授業日）ありますが、一部出られない場合は相談してください。皆さんの入部をお待ちしています。

編集後記

新入生とご家族の皆さん、ようこそ SIS へ。広報センターは、この「インターカルチャー」の編集・発行、学園ホームページの作成・更新、教員の授業実践・研究の報告を目的とする「研究紀要」の編集・発行を主な仕事としています。「インターカルチャー」は各学期に2回、年6回の定期発行で、SIS のさまざまな活動を製本版とウェブ版とでお知らせしています。「保護者会だより」は保護者会広報委員会で企画・取材・記事作成・編集をされています。「保護者会だより」の年度の最終はこの5月号です。一年間お疲れ様でした。そして楽しい記事をありがとうございました。（馬場博史）

新しい学年がスタートしました。新入生、編入生を迎え、とても明るくにぎやかな毎日です。学園祭への準備も始まりました。次号インターカルチャーでいろいろ楽しい報告ができるような取り組みになることを、楽しみにしています。（合志智子）

インターカルチャーへの記事・ご感想等は、e-mail で hbaba@senri.ed.jp までお送り下さい。インターカルチャーはバックナンバーも含めて本学園ホームページ www.senri.ed.jp/interculture でもご覧いただけます。また広報センター担当の学園ホームページにつきましてのご意見・ご感想などもお待ちしております。

編集：SIS 広報センター 保護者会だより編集：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

当学園にご来園の際は、お車ではなく公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

保護者会だより

●「保護者会だより」文責：保護者会 Public Relations Committee
ホームページアドレス <http://www.sispa.jp>

保護者会活動報告・予定

★各委員会とも、総会資料作成、年度末の残作業、委員会役員の引継ぎ等を行いました。

■ Board

3月 各新役員決め 委員会引き継ぎ

4月1日 SIS 入学式 SISPA 説明
7年委員募集 入学式ティーサービス

4月各日 各委員引き継ぎ
総会に向けての準備

4月25日(金) 10:30～3F 会議室にて
委員顔会わせ会

5月22日(木) 13:30～シアターにて
保護者会総会(予定)

★ 2008 年度保護者会総会のお知らせ★

2008 年度保護者会総会を下記のとおり開催いたします。ぜひともご参加いただきますようお願いいたします。もしもご欠席の場合には、委任状の提出を宜しくお願いいたします。

2008 年度保護者会総会

開催日時 5月22日(木) 午後1時30分より

開催場所 千里国際学園シアター



(保護者会からのおねがい)

*ご出席の皆様は、公共交通機関をご利用下さい。

(千里中央発 12:10、13:00 北千里発 12:20、13:10 の千里国際学園行きのバスがあります。)

多くの保護者の皆様のご出席をお待ちしております。

◎ SISPA 2007 年度末特集

～この一年を振り返って～

■ Board

会長 竹井 みゆき

私たち 07Board は、メンバー全員が、役員未経験者というスタートでしたが、個々の絶大なサポートにより、最高のチームワークで活動することが出来ました。

保護者の方々、役員未経験の方々、ぜひ、保護者会活動にご参加下さい。きっとたくさんの良い経験と友人が出来ると思います。1年間ありがとうございました。



副会長 浦上 アニエス

一年間 board の member させていただいてありがとうございました。いろんな方にお世話になりました。振り返ってみるととても良い経験でした。心暖かい方ばかりに出会えました。本当に保護者にとって SIS は楽しい学校だと思います！自分のお子さんの学校生活をもっと知りたかったらぜひ参加して下さい。Vous etes toujours les bienvenus !

副会長 大迫 久仁子

千里国際学園保護者会・・・知れば知るほど素晴らしい会だと思いました。

保護者の皆様の子供達への愛情がそのままこの会の方にも向けられていて、そのパワーは皆様もご存知のとおり世界も動かしてしまうのではないかと・・・(笑)。

「世界一」愛情いっぱい保護者会に感謝です。一年間ありがとうございました。



会計 三戸部 元子

まわりの皆様に助けていただきながら、何とか会計の仕事させていただくことが出来ました。娘の卒業とともに私も SIS からの卒業となり、一抹の寂しさを感じております。この活動を通して、多くの方々知り合え、いろいろ教えていただき、大変感謝しております。今後の保護者会の活動が、よりよいものになりますようお祈りいたします。

会計 堂腰 清美

保護者会の会計は、一人に重責がかからず、かつ要らぬ疑いがかからぬように、印鑑・通帳・キャッシュカードを3人で管理するという方法で、慎重に扱われていました。その大切な会費を、保護者会・学校のために有意義に還元できるように努力してきました。しかし、まだまだ検討の余地あり・・・が1年を済ませて思うことです。この思いを08年度ボードの皆さんにお伝えして、更に有効に活用していただくようお願いいたします。



書記 山澤 紀子

右も左もわからないうちに引き受けてしまったボード書記。でも、メンバーに恵まれ(傍は迷惑?) 楽しく1年間を過ごせました。委員さんをお願いするときの「やってみると楽しいし、学校のこともよくわかるし、なにより知り合いが増えるし！」を、ひしひし実感。まだ未経験のみなさまざまぜひ！

■ Hospitality Committee

委員長 土田 えり子

今までボランティアにも参加したことがなく、ホスピタリティ委員のことを良く知らないまま、手探りで始めた1学期、大忙しの2学期、少し余裕が持てた3学期、一年があっという間に過ぎました。

大変ではありましたが、2学期のAPACのバンケットは、特に印象に残るものとなりました。20人以上の方がボランティアに来てくださり、HFL室で、焼きそば班・グラタン班・チヂミ班などに分かれて調理したのです。皆さんが手際よく、素晴らしいお料理を作っていたので、大変、素敵なお料理になりました。片付け終わると夜遅くなりましたが、皆さんのお陰で、コーチや先生や生徒達から、本当に感謝され、責任者のジム・シェル事務長からはお礼のお手紙までいただき、大変光栄に思いました。

振り返ってみると、皆さんの笑顔だけが思い出され、子供達の、学校の役に立ちたいという保護者の皆さんの熱い思いを感じた一年でした。そして、何より、そんな皆様に知り合えて幸せを感じております。一年間、本当にありがとうございました。

■ Network Committee

委員長 橋本 千春

ネットワーク委員会とは、地域ネットワークの充実を図るためのお手伝いをする事が大きな役割と考え一年間委員活動を行ってまいりました。

どこの学校にも保護者の集まりは存在すると思いますが、地区ごとにネットワークが作られ、各地域ごとに親睦会を開いている学校は少ないのではないのでしょうか？学年の保護者会は学年内の、そして地域ネットワークは学年を超えて、地域によっては、OB方にもご参加いただき、先輩お母様に学校、子供の成長のこと、通学路のこと、進学のことを気軽に相談できる会として存在しております。みなさまが、親睦会を心待

ちにして楽しく、賑やかにお話されている様子はどの報告書からも伝わってまいりました。地域リーダーを引き受けてくださった方々は、皆さんの期待を受けて、地区の方のご都合を考え、何度も連絡をとったり、みなさんがよりよい親睦を図れるように、お店を入念に探したりと、色々な工夫をしてくださりました。一年間地域のために活動してくださり、本当にありがとうございました。

また、ネットワーク委員会では、今年から、学年委員の代表として学年の保護者会の中心となり、活動してまいりました。地域ネットワーク・学年ネットワークが繋がり、更によりよいものになるために、今後ネットワーク委員会の活動が有意義なものになると思います。

一年間微力ではございますが、1学年1人ずつ、6名で力を合わせて委員会活動をさせていただきました。初めての学年代表の活動もあり、6名のコミュニケーションが非常に重要でしたが、最後まで6名で協力し合うことができ私の中にもあらたなネットワークが出来上がりました。

最後になりましたが、委員長が一年間勤められたのも他5名の委員さんのおかげだと感謝しております。ありがとうございました。

■ International Fair Committee

副委員長 佐々木 千香

2007年度のインターナショナルフェアは 11月23日(金)『Around The World』をテーマに開催させていただきました。色々な国の料理が並ぶ飲食ブースや民族衣装ファッションショーなど本当に両校の保護者皆様のご協力で、国際色豊かなフェアが出来た年だったと思います。

インターナショナルフェアは1年に一度 Two Schools Together を合言葉に O I S、S I S の保護者が協力しあい作り上げていく保護者会主催の大切なイベントです。

1年を振りかえって、今年度は O I S、S I S のフェア委員担当の保

護者が本当にうまく連携のとれた委員会づくりが出来た年だったと思います。O I S 委員の獅子倉さん、三木さん、藤川さんに心から御礼申し上げます。またフェア直前に委員長が急病になるといったアクシデントを乗り越えてがんばった S I S フェア委員の皆様、本当にご苦労様でした。

インターナショナルフェアは大勢の保護者ボランティアの力で成り立っています。フェア委員になって改めてその力の尊さや素晴らしさを実感できたような気がしてなりません。年々ボランティアの集まりが難しくなっていくことは明らかですが、今後も子供達の為にひとりでも多くの方に参加していただき、この保護者主催の素晴らしいフェアが楽しくいつまでも続いていく事を心から願います。

■ Public Relations Committee

委員長 松本 由美

PR委員会では、インターカルチャ誌と保護者会ホームページを通して、保護者会のさまざまな活動を会員の皆様にお伝えすることを仕事としています。よりホットな情報を心がけたつもりですが、うまくお伝えすることができたでしょうか？今年度は、インターカルチャ誌の原稿が多く、編集、校正に大変時間がかかりました。インターネットの掲示板を利用して、メンバーと話し合いながら校正作業を進めましたが、その誤字脱字発見能力には驚くばかりで、私にとっては、その作業が一番楽しいものでした。また、ホームページのほうは、担当者が閲覧率アップのための新企画を考え出し、私自身、わくわくさせられました。今後、この二つの媒体を通して、会員同士のつながりがより深まることを祈っています。

委員長としてきちっと仕事が出来たかどうかは全く自信がありませんが、委員にならなければ出会えなかったであろう人々と出会えたということが何よりの収穫だったと思います。まずは、藤澤元校長先生。大作を寄

稿していただき、さらに実際にお会いすることができました。大迫校長先生にはお忙しい中、何度も原稿に目を通していただきました。元委員長吉崎さんには、メールで質問攻めにしていましたが、いつも温かく助けていただきました。新委員長の前田さんとは、アメリカのレキシントンという町に同時期住んでいたことが判明し、共通の知人もいることにお互いびっくりしました。素敵な原稿を書いてくださった卒業生、保護者の皆様。1年間、頼りない私を全面的に支えてくれた委員の皆さん。そして、インターカルチャー編集長、馬場先生。

「ママ、いつもパソコンみてるね」という娘の言葉に胸を痛めながら始めた委員でしたが、皆様と出会うことが出来、楽しく充実した1年でした。本当にありがとうございました。



副委員長 矢野 祐利香

今回保護者のページで、卒業生の特集を担当させていただきました。

委員をするまで、インターカルチャーは、興味のあるところだけを流し読みする程度でした。

卒業生の皆さんから、原稿を集めて、インターカルチャーに載せてみるとどれもSISPへの思いや、受け継いだSISPの教育等伝わってくるものばかりでした。みなさん、ちゃんと読んでくださってるのかなあ？いや、読んでほしい！と強く思ったのは、多分私だけでなく、今までのインターカルチャーを担当された委員の方々も、毎号発行のたびに、同じ思いだったと思います。担当して初めて、作り手側の思いを知ることが出来た一年でした。他の委員さんたちにも恵まれ、いい経験をさせていただきました。一年間ありがとうございました。



インターカルチャー担当 蔦田 和美

学校のことを知りたい、保護者会活動を楽しみたいとの思いで委員会に参加させて頂きました。私自身

は時間に制約があり、結局皆さまにご迷惑をおかけするだけでしたが、ネットでのコミュニケーションを介してSISPの保護者の皆さまの熱意に接し、刺激を頂く日々でした。PR委員のみなさま本当に疲れ様でした。そして快く原稿依頼に応じて頂いた保護者の皆さまに心から感謝いたします。



インターカルチャー担当 林 桂子

委員を決める日、「何にする？」と近くにいた人と話をしている、「うん、NetworkかHospitalityかな」、なんて答えていたのに、学年委員が輪になった時何故か本当になぜか“PRを”と答えていました。(心の中では違う～～！と叫んで)この、信じられない出来事から始まったPR委員、一時は鈍くさい私に、自他(たぶん)共に心配しましたが、今振り返ると楽しく、そして有意義なものでした。人に恵まれての一年で、委員の方々は勿論ですが、関わった皆様から温かいものをいただきました。人の繋がりが縁は不思議なもので、委員をしなかったら絶対出来なかっただろう体験をさせていただき、この歳になっても感動し、感謝いたしました。それは直接的に関わる話だけではなく、広がりをもった面白さが沢山あって、人の持っている才能にもつくづく驚かされました。一年間至りませんでした。有難うございました。



ホームページ担当 安達 江津子

一人でも多くの方が見てくださることを願いながらの、SISP Aホームページの編集・更新はとても楽しく、新企画やインターカルチャーの校正作業も含めて、PR委員会活動は大変充実したものでした。同じPR委員のみなさまとは、掲示板やメールでのやり取りが殆どでしたが、楽しい時間を

共有させていただいたことに感謝いたします。2年続けてお引き受けしたPR委員も、もう終わりと思うと寂しくなります。ご協力くださいましたみなさま、ありがとうございました。



インターカルチャー担当 伊沢 由紀

パソコンに詳しくはない。文章力も企画力もない。そんな私には向かないと思っていたPRでしたが、向き不向きは別として、一年間自由でおもしろかったです。素敵な文章を書いてくださった保護者の皆さん、役に立てない私を温かく受け入れてくださったPRの皆さん、個性を尊重してメンバーを楽しく泳がせてくださった委員長の松本さん、本当にありがとうございました。



ホームページ担当 松山 美和

1年間、保護者会ホームページの更新を担当させていただきました。初めて触るソフトウェアでの更新作業は、慣れるまでおっかなびっくり、ドキドキづくめの日々でした。大過なく記事を更新することで精一杯だった年度当初から少しずつソフトの操作にも慣れてくると、欲張りな気持ちも出てきて、きれいで見やすいホームページ、興味を持ってもらえるホームページを目指そうとしてまいりましたが、力及ばず…。思うような成果を残せなくて1年が終わってしまい、とても残念です。

今後、保護者会ホームページが保護者同士をつなぐ素晴らしいページへと発展していくことを祈っております。1年間ありがとうございました。PRのみなさま、大変お世話になりました。



PR members at IF

過年度の特集記事のタイトルを集めてみました！学校ホームページまたは、図書館で閲覧可能です。

～インターカルチャ 特集記事～

号	年月	特集内容
116	2008年03月	卒業生は今 Vol. 4 特別編 / 千里国際学園創設の時期を回顧してその4
115	2008年02月	卒業生は今 Vol. 3 社会人編 / 千里国際学園創設の時期を回顧してその3
114	2007年11月	卒業生は今 Vol. 2 大学上級生編 / 千里国際学園創設の時期を回顧してその2
113	2007年10月	卒業生は今 Vol. 1 2006年度卒業生編 / 千里国際学園創設の時期を回顧してその1
110	2007年03月	S I Sの親としてここが知りたい！ Vol. 4～受験体験記～
109	2007年02月	S I Sの親としてここが知りたい！ Vol. 3～社会人になってから、S I Sでの経験が役に立ったこと～
108	2006年11月	S I Sの親としてここが知りたい！ Vol. 2～留学・ホームステイ～
107	2006年10月	S I Sの親としてここが知りたい！ Vol. 1～どんなクラブがあるの？～
104	2006年03月	シリーズ 学校を取り巻く人たち 第4回 保護者、宝塚
103	2006年02月	シリーズ 学校を取り巻く人たち 第3回 S I Sの英語教育について
102	2005年11月	シリーズ 学校を取り巻く人たち 第2回 第2外国語と音楽個人レッスン
101	2005年10月	シリーズ 学校を取り巻く人たち 第1回 開校15年目を迎えて思うこと・先生方からのメッセージ
98	2005年03月	卒業・嬉しさと寂しさと大きな希望と
97	2005年02月	S I Sからの受験 その後編 卒業生にインタビュー形式
96	2004年11月	S I Sからの受験 私たちの選び方・学び方PART2
95	2004年10月	S I Sからの受験 私たちの選び方・学び方
93	2004年05月	ただいま奮闘中 卒業生インタビュー 本校社会科の先生
92	2004年03月	卒業にあたり保護者からの想い・・・ご卒業おめでとうございます・・・
91	2004年02月	ただいま奮闘中 卒業生インタビュー 魔笛に出演 水口 健次さん
90	2003年11月	ただいま奮闘中 卒業生インタビュー バレーリーナ 西田 佑子さん
87	2003年05月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第六回 外国語大学の巻
86	2003年03月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第五回 関西の大学の巻
85	2003年02月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第四回 関西学院大学の巻
84	2002年11月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第三回 理系の大学生の巻
83	2002年10月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第二回 関東の大学生の巻
82	2002年06月	シリーズ「大学」ってどんなところ？ 第一回 立命館の巻 卒業生によるアンケート
81	2002年05月	ZOOM IN S I S 進路指導室
80	2002年03月	ZOOM IN S I S あげぼの寮
79	2002年02月	ZOOM IN S I S 図書館
78	2001年11月	ZOOM IN S I S 校長室・プラネタリウム
77	2001年10月	ZOOM IN S I S 保健室・カウンセリング室
75	2001年05月	落語の会 講演と落語
74	2001年03月	卒業に向けて 保護者からの感想
73	2001年02月	覗き見探検隊 箕面の歴史
72	2000年11月	覗き見探検隊 喧噪の嵐山をはなれて
71	2000年10月	覗き見探検隊 須磨
70	2000年06月	親からみたタイ学年旅行顛末記
69	2000年05月	のぞき見探検隊 図書館
68	2000年03月	のぞき見探検隊 プラネタリウム コンピュータールーム
67	2000年02月	のぞき見探検隊 インターナショナルフェアを終えて
66	1999年11月	のぞき見探検隊 番外編 海外のインターナショナルフェア・ミニ紹介
65	1999年10月	のぞき見探検隊 カフェテリア トレーニングジム
64	1999年06月	シャミ・ダッタ先生を囲んで
63	1999年05月	今年の卒業生の保護者特集
62	1999年03月	保護者OBからの風 教育方針の成果は卒業生に表れる 心に残る5つのリスペクト
61	1999年02月	保護者OBからの風 忘れられない入学式

保護者会における

個人情報の保護に関する方針について
基本方針

1. 個人情報は責任を持って、安全かつ正しく取り扱う
2. 第三者に漏れないよう管理する
3. 利用目的にのみ使用する
4. 個人情報の取り組みは、継続して見直しを行い、改善を図る



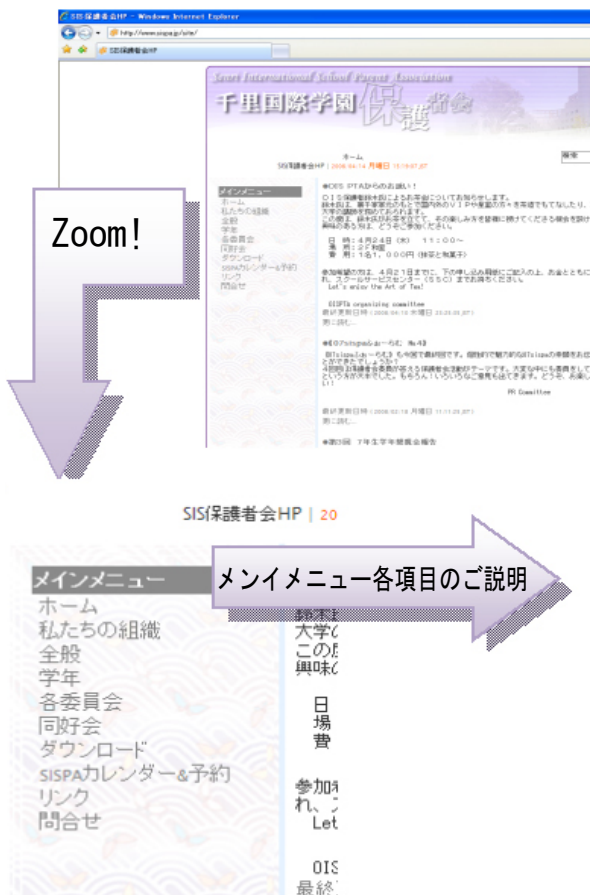
S I S保護者会 (S I S P A) ホームページ

みなさま、S I S P Aホームページはご覧いただいていますでしょうか？S I S P Aホームページでは、各委員会や学年からのお知らせや報告書、保護者会行事のカレンダーを掲載、随時更新していますので、どうぞご覧ください！

また、保護者会室や保護者会所有の備品の予約、各委員会へのお問い合わせをすることもできます。同時に、各委員会や学年からの記事も随時募集しておりますので、詳しくは新P R委員会(08pr@sispa.jp)までお問い合わせください。

S I S P Aホームページのご利用方法

- * <http://www.sispa.jp/site/> にアクセスしてください。S I S P Aホームページのトップ画面が出てきます。お気に入り追加しておくと便利です。
- * それでは、記事を見ていきましょう。トップ画面では、新しい記事が上から順に並んでいます。見たい記事のタイトル、または“更に読む”をクリックすると、記事の全文を見ることができます。見たい記事がトップ画面にない時は、左側のメインメニューの、全般以下からカテゴリーを選びます。
- * 例えば、“学年”をクリックすると、学年ごとにカテゴリーが2つずつ表示されます。○年生とあるのは今年度、○年生 ~△年度とあるのは前年度以前の記事(アイテム)です。見たい方をクリックして、見たい記事を探します。他の記事も同様です。
- * 次にメインメニューのご説明です。



○私たちの組織・・・S I S保護者会・会費について

> 会則・・・保護者会会則

○全般・・・学年や委員会以外の記事

> お知らせ

> 特集

○学年・・・各学年からのお知らせ。主に保護者学年懇親会のお知らせや報告書

> 7年生～12年生

○各委員会・・・各委員会からのお知らせ

> Board・Hospitality・International Fair・Network・Public Relations

○同好会・・・保護者会の同好会活動

> 現在の登録は SOIS GOSPEL CHOIR のみ

○ダウンロード・・・インターナショナルフェアのパンフレットなどのダウンロード

○S I S P Aカレンダー&予約・・・保護者会の予定表と保護者会室や備品の予約ページ。“こちら”を開きますと、お問い合わせ画面に切り替わりますので、いつ誰が何を(備品は数も)借りたいのかを入力の上、送信してください。カレンダーで予約状況を確認してから、重ならないようにご予約ください。また、3階会議室を予約された時も予約状況把握のために、こちらにご連絡ください。カレンダーに掲載いたします。

○リンク・・・学校ホームページやインターカルチャ・SOIS行事予定表などにリンクしています。

○問い合わせ・・・各委員会や学年などへのお問い合わせや

連絡などはこちらからどうぞ。保護者会室や備品の予約などもできます。

*本文中に“こちら”という色文字があれば、クリックしてみてください。リンク先やお問い合わせ画面に切り替わります。

*委員会や学年連絡係などへ直接メールを送ることができます。アドレスは、下記のとおりです。

<p>委員会</p> <p>☆ Board : 08bd@sispa.jp</p> <p>☆ Network committee : 08nw@sispa.jp</p> <p>☆ International Fair committee : 08if@sispa.jp</p> <p>☆ Hospitality committee : 08hp@sispa.jp</p> <p>☆ Public Relations committee : 08pr@sispa.jp</p> <p>☆ All committee : 08all@sispa.jp</p>	<p>学年</p> <p>☆ 7年生 : sis2014@sispa.jp</p> <p>☆ 8年生 : sis2013@sispa.jp</p> <p>☆ 9年生 : sis2012@sispa.jp</p> <p>☆ 10年生 : sis2011@sispa.jp</p> <p>☆ 11年生 : sis2010@sispa.jp</p> <p>☆ 12年生 : sis2009@sispa.jp</p>	<p>その他</p> <p>☆保護者会室・備品の予約 : yoyaku@sispa.jp</p> <p>☆O I S P T A (イベント時限定) :</p> <p style="text-align: right;">oispta@sispa.jp</p> <p>☆SO I S G O S P E L C H O I R :</p> <p style="text-align: right;">gospel@sispa.jp</p>
--	---	--